

特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて
ニュースレター第 39 号 2024.8.28



「第 21 回 NPO 法人環境パートナーシップいわて総会」が開催されました

毎年恒例の「第 21 回特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて総会」が 6 月 29 日（日）アイーナ 6F 団体活動室にて開催されました。参加者 18 名、委任状提出 58 名の出席で開催要件を満たし、渋谷晃太郎代表理事挨拶の後、議長に白澤重則氏を選出し議事に入りました。事前に理事会で承認されていた 6 議案（第 1 号議案：令和 5 年度事業報告、第 2 号議案：令和 5 年度活動決算報告、第 3 号議案：令和 6 年度事業計画、第 4 号議案：令和 6 年度活動予算、第 5 号議案：役員給与の総額、第 6 号議案：役員改選）を会員の皆さまにお諮りし、すべての議案の承認をいただきました。

第 3 号議案に関連する運営方針では、活

動理念として「未来世代により良い環境を引き継ぐことを目指し、環境教育および環境保全・創造活動を促進することで県民が持続的発展可能な循環型社会の実現に寄与する」が示され、2019 年 11 月に開催された地域循環共生圏フォーラムに掲げた目標である「脱炭素と SDGs の達成を岩手から」をさらに推し進めていくことを再確認しました。SDGs を連携の切り口として、これまでにない多様な連携を各団体間で生み出し、各地域にパートナーシップを進めるためのフラットな場づくりを継続して進める。水生生物調査の機会等を通じて、川ゴミ、海ゴミ、プラゴミについての調査を進め、全県的なマップに集約する姿を目指す。30by30 アライアンス活動とし

て、活動事例を1回／年報告し自然共生サイトの登録を目指す等の方針が示されました。

また、第6号議案の役員改選では、先の理事会で推薦、承認された新理事9名が紹介され、全ての新理事の就任が了承されました。環境政策、循環社会・廃棄物、林業、メディア関連、食料・農業、環境教育、食・温暖化・SDGs、環境・暮らし・平和、総務・経理分野に卓越した経験と知識をお持ちの方々が理事に就任され、今後の環パいを牽引していくことになりました。総会終了後に開催された臨時理事会では、代表に渋谷晃太郎氏、事務局長に森一夫氏を互選し、これまでの理事7名と新たな理事9名の合計16名の体制で運営を行うことが決まりました。

会員の皆さまはもとより県民の皆さまをはじめ、岩手県にとってなくてはならないNPO法人となるべく努力を今後も続けてまいります。運営に際しまして、会員の皆さまの一層のご理解、ご支援、ご提案をいただきますようお願い申し上げます。

環境パートナーシップいわて 新理事のご紹介

小野寺真澄理事

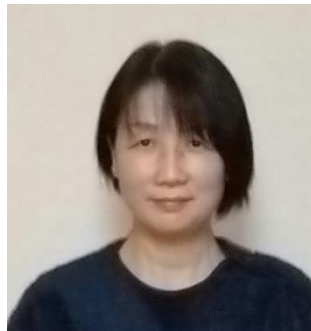


私は産業廃棄物処理業を営んでおり、人が捨てたものを処分する立場です。創業者は私の父であり、私は2代目です。

創業は廃棄物から銀を抽出する事で、幼少の頃から工場で銀が作られる様子を誇らしく思っていました。周囲からの見られ方は、やはり「産廃屋」でした。私は幼心に衝撃を受け、自分の家の仕事を恥じた事もありました。やがて、この仕事に携わり、私たちの取組次第で生活衛生だけではなく、地球環境に大きく影響があることを学び、これまでやってきたことを含め大義あ

る役割を感じています。リサイクル（資源循環）を、捨てる人と、処分する人と、行政とで、脱炭素を実現しながら本気で取り組まなければならない時代です。私たちが住む環境を、自分事として意識し変化するきっかけとなるよう、私は「産廃屋」の仕事を通じて多くの方にお伝えしたいと考えています。様々な環境ご専門の方々との交流により、深い知見で学べることを楽しみにしております。

小池佳子理事



小池佳子と申します。よろしくお願いいたします。現在、いわて生協の組合員理事として都南、矢巾、紫波地域で活動しております。我が家には子供が3人おります。

それぞれ成人して、市外に住んでいます。この子供たちがこれから活躍していくだろうこれからの何十年、そしてその次の世代が暮らしていく100年先の未来の環境がとても住みやすく、美しく、気持ちのいい、そんな環境であることを願っています。そのために現在取り沙汰されている様々な環境問題を、今を生きている私たちがみんなで、きちんと、そしてすぐに解決していくことがとても大事だと思い、声をあげてみんなで取り組んでいく世の中になるように、そのために少しでも自分も声を届けられるよう活動していきたいと思っています。以上、よろしくお願いいたします。

木幡英雄理事



このたび理事に就任いたしました。よろしくお願いいたします。出身は宮城県になります。大学時代を盛岡で過ごし、卒業後は東京にあるNGOに勤めまして、再び盛岡にある岩手県

森林組合連合会に転職し現在に至ります。盛岡の街並み・岩手の豊かな自然に浸り20年となりました。自然体験の基礎は子供の頃になりますが、自然環境について考え、行動を起こす基となるのは、岩手の自然であり、これまでに会った様々な方々です。自身の出来る範囲はまだまだ狭い若輩者ですが、当会の趣旨に貢献できるよう

務めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。因みに、体の8割は白龍のじゃじゃ麺で出来ています。

経歴) 岩手大学大学院農学研究科修了(2004)、公益財団法人日本自然保護協会(2003~2009)、岩手県環境アドバイザー(2015~現在)、盛岡市環境審議会委員(2019~現在)、NACS-J 自然観察指導員(公益財団法人日本自然保護協会)(2003~現在)

佐野利恵理事



はじめまして。この度、新理事に就任いたしました、さのりえと申します。私は、声と映像に関わる仕事をしております。学生時代に環境保全を学んで以来、「人と人が自然や動物を守るために

手を取り合う社会」を作るために、自分に何ができるかを模索してまいりました。これまで、東日本大震災の復興支援員広報やラジオパーソナリティ、現在の映像制作の仕事など、様々な仕事を経験してきましたが、その目的は一貫しています。それは、自分に「伝える」力をつけることです。大切な取り組みや想いを伝えることで、人々が互いを理解し、環境保全という同じ方向を向くきっかけを作ることができると信じており、それが私の目標です。今後は、環境パートナーシップいわての皆さんと一緒に、イベント運営やPRの面で力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

重浩一郎理事



こんにちは。八戸高専の重(しげ)と申します。研究テーマは、地域脱炭素などの環境政策や土木計画、まちづくりなどです。今年の4月から八戸高専の教員をしておりますが、それ

までは公務員でした。国(環境省)、県(岩手)、市(久慈)のそれぞれで勤務経験があるのは珍しいかもしれません。これまでの行政経験を活かして、特に脱炭素に関する取組など地域の環境政策が進むよう微

力を尽くしたいと考えております。なお、現在の勤務地が八戸で、久慈市役所勤務時代には当地に住んでいたこともあって岩手県北地域とはご縁があります。このため、青森県と岩手県北地域をつなぐ役割やこれらの地域の活性化にも取り組んでいきたいと考えておりますのでよろしくご指導いただきますようお願いいたします。

白澤重則理事



白澤重則と申します。前職は、アイシーエスに40年余り在職し、総務、人事および経理業務を担当しました。前職の関係もあり、当法人の総務経理業務を担当

して約2年経過しましたが、その傍ら、経済産業省の省エネ診断および伴走支援の事業も担当しております。当法人にお世話になるまでは、環境についての知識がほとんどありませんでしたが、日々関係する情報が入ってくるので新発見があり、毎日が新鮮です。毎年のように繰り返される、温暖化による災害の報道を目の当たりにすると、改めて大事な分野と感じております。私の担当は総務経理業務なので、経営分析や内部作業の効率化を図ることはもちろんですが、一部の事業にも携わり、微力ではございますが当法人の発展のために頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

松木佐和子理事



松木佐和子と申します。現在、岩手大学農学部で講師をしております。盛岡に来て18年になります。専門は森林生態学で、樹木とそれを食う昆虫の関係に注目した研究を行っています。一方で、2017年の育児休暇中に森林インストラクター資格を取得する機会を得まして、人が自然や森林に関わるきっかけを作りたいという思いから、盛岡市三ツ割にある小鹿公園で自然観察会「小鹿(おか)めぐり」をいわて森林インストラ

クター会の仲間とともにいわて虫の会、いわて植物の会、大学生にも協力いただきながら行なっています。これまで自身の活動に精一杯で、あまり周囲に目を向けることができませんでしたが、環境パートナーシップいわてには、さまざまな視点で活動を行っている経験豊富な方々が所属されていることを知りました。今後は、少しずつ皆さまから刺激いただき、新たな挑戦ができるよう精進して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

若生和江理事



奥州市江刺にて、「やまんば工房」という屋号で郷土料理の伝承や地元食材を使った弁当作りを行っています。

岩手に生まれ育ったことを良かったなあ…と実感できるよう「環境」というアンテナを立ててまずは身の回りを見渡してみること。

昔から続いてきている岩手のスピリッツと今起きていること、両方を見続けていく眼を持った市民の一人として行動して行きたいと思っています。

渡邊里沙理事



有限会社秀吉取締役
渡邊（近藤）里沙
盛岡市内で飲食店を7店舗経営しております。加えて、岩手の食材を全国の飲食店に販売する事業や、食を通じた地域活性化のお手伝いなどを

しております。
私が環境問題に関心を持ったのは、子供の頃（1980年代）、毎年のように庭でかまぐらを作り、その中で焼肉を焼くことが家族行事だったにも関わらず、雪が少なくなり出来なくなったことが最初でした。進学で東京に移住して、さらに環境問題への関心が高まり、身近な環境＝食の分野で環境負荷を少しでも削減できる取組みが出来ないかと考え岩手に戻りました。父が経営していた会社に入る形で新規事業を立ち上げ取り組んでいます。環境負荷削減と地域経済の活性化の両軸をうまく回していくのはなかなか大変ですが、可能な限り食材

ロス削減や、食材の輸送距離の短縮化、梱包資材等の環境負荷低減など、皆さんと共に取り組んでいけたらと思っています。よろしくお願いいたします。

ツキノワグマ展のお知らせ



環境学習交流センターでは、10月10日（木）まで葛巻町に在住した故上高山兼太郎氏が製作した木彫りのツキノワグマ、野生動物写真家佐藤嘉宏氏が撮影したツキノワグマの写真、そして岩手大学ツキノワグマ研究会のパネルを展示しています。

クマと出会うことが頻繁となった昨今、クマと人間がうまく共存していくためにはどうしたらよいのか。私たちの知恵が

試されています。

ぜひ、センターの展示をご覧ください。

環境パートナーシップいわてニューズレター第39号をお届けいたします。21年目を迎える環境パートナーシップいわての第21回総会ならびに新たに就任した新理事9名を会員の皆さまにお知らせします。

地球環境が激変する中で私たちの暮らしは今後どうなるのか。環ぱいの基本理念「こちよく豊かに生きる」を実現し、豊かな岩手の未来を創造するために環ぱいの活動は益々重要性を増してきているように思われます。会員の皆さまのご協力、ご支援が欠かせません。環ぱいの諸行事にご参加いただき、ご意見、ご批判をお寄せ下さい。会員の皆さまの総意がこれからの環ぱいを創っていきます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

・・・令和6年度会費納入のお願い・・・

令和6年度の会費納入の用紙を同封しています。年会費3,000円のお納めをお願い申し上げます。なお、すでに納められた方には請求書を同封しておりません。

ニューズレター第39号 令和6年8月28日発行
編集：特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて事務局

〒020-0124 盛岡市厨川 5-8-6

TEL:019-681-1904 mail: kanpai@utopia.ocn.ne.jp